『生命のバトンタッチ』

島根県
二年
山根（やまね）　めい

三月十九日、『命の大切さを学ぶ教室』を受講しました。受講して感じたこと、それは当たり前に感謝することです。当たり前の反対言葉はありがとうと聞いたとき、驚きましたがとても納得しました。日常生活、普通に暮らしていることがどれだけありがたいことかを日々感謝しながら、生活することが大切だなと思いました。

今回お話ししてくださった、江角さんは飲酒運転という許されない行為によって娘さんを亡くされました。私は江角さんの話を聴きながら、とても悲しく涙が出そうになりました。ずっといると思っていた人が突然いなくなる。想像するだけで、悲しくなります。飲酒運転での事故は、加害者がいます。私がもし子供を持ち飲酒運転によって死んでしまったら、一生その加害者を許せないです。でも、どんなにどんなに許せなくても子供はもう見れない。どこにいるんだろう。今なにしてるんだろう。早く早く会いたいという気持ちになると思います。悲しみに浸りたいのに、やらなければならない事が次から次へとやってくるのはほんとに辛いと思います。

被害者も加害者も出さない社会にしていくためには、１人１人が命の大切さ、尊さをしっかりと考え、理解することだと私は思います。命に代わりなんてものはない。一人一人が絶対だ。この言葉は私に強く印象に残った言葉です。命１つ１つがどれだけ大切かを今回改めて考えました。

当たり前の反対言葉はなんでしょう?と江角さんに聞かれたとき私は正直まったく分かりませんでした。冒頭でも書いた通り『当たり前』の反対言葉は『ありがとう』です。当たり前に感謝する、これがどれだけ大切なことかが身に染みてわかりました。

受講後家に帰って、私は考えました。もし、突然家族の誰かがいなくなってしまったら、亡くなってしまったらと。想像したくありませんでした。怖くて怖くてたまりません。ただただ、悲しくて喪失感がすごく、立ち直れないと思います。

『命は大切だ』と聞かされてもなかなか心に残るのは難しいと思います。自分には関係のない話と思ってしまうが、今回話を聞いて、いつ何が起こるか分からない、他人事ではないと気づきました。命の大切さを分かっているつもりだったのかもしれません。そのぐらい今回の教室は私にとってものすごく大事なものになりました。

さまざまな映像を見て、印象に残ったものは命のメッセージ展です。出雲ビックハートで開催され、たくさんの人が参加していました。事故事件は時とともに風化しつつあり、同じ過ちが繰り返されているように思います。被害者家族の状況や、支援の必要性などへの理解を深める貴重な機会だと思います。もし、また開催されるのであれば行きたいです。

タイトルである、生命のバトンタッチ。これに込めた思いは、人の命は消えず誰かの心にずっと残ると私は思います。被害者、加害者をこれ以上増やさないように、みんなの少しのやさしさや気遣いが増えるといいなと思います。こうして、生命は繋がっていく。